

本ばこ

一新刊教材・図書紹介

しん かん きょうざい と しょ しょうかい

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っているると便利な図書・資料」などを取り上げます。

データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

14のテーマで総合的・学術的能力がつく中・上級教材

『国境を超えて』

データ

本文編

1 山本富美子編著 2 新曜社(〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 多田ビル / TEL.03-3264-4973 FAX.03-3239-2958)

URL www.shin-yo-sha.co.jp E-mail info@shin-yo-sha.co.jp 3 2001年3月5日 4 4-7885-0749-8 5 B 5判・270ページ 6 2,940円

7 別売カセットテープ(78分) ¥1,100円

文型・表現練習編

1 山本富美子、工藤嘉名子編著 2、3 本文編と同じ 4 4-7885-0750-1 5 B 5判・194ページ 6 2,520円 7 別売カセットテープ(78分) ¥1,100円

『国境を超えて』は初級を終了した文科学系学生を対象とした中・上級用教材です。大学で日本文学・異文化などを学ぶ日本人学生・留学生が共通に関心を持つような「開発の功罪」、「環境問題」、「グローバル化時代の課題」、「人材育成」など14のテーマがあります。

この教材の特徴は、それぞれのテーマが大学の学部において必要と思われる知識内容や専門語彙をもとに選ばれていることと、それぞれの

読み物が問題提起を促して留学生と日本人学生の共同学習を可能にしていることの二つです。

もともと日本の大学で学ぶ留学生を対象としたものですが、海外でも日本事情という点から自国の場合と比較しながら学べます。

読解から口頭表現へ ステップを踏んで

「本文編」の課の構成は以下のとおりです。二つの読解素材(本文 と)、聞く練習、タスクです。読解素材の一つは文章、もう一つは口頭表現です。それぞれの読み物について内容理解の質問があります。さらに本文の内容を言い換えたり、キーワードを使い口頭表現能力も高めるよう工夫されています。次の「聞く練習」では先の読解素材(本文 と)で扱ったテーマにつき、座談会、学生の話合い、講義などで聞き取り能力を身につけるようになっていきます。そして、各課の終わりのタスクでは意見の対比、反論などの必要な言い方を学んだあと、自分でレポートを書いたり、口頭発表をしたりするようになっていきます。



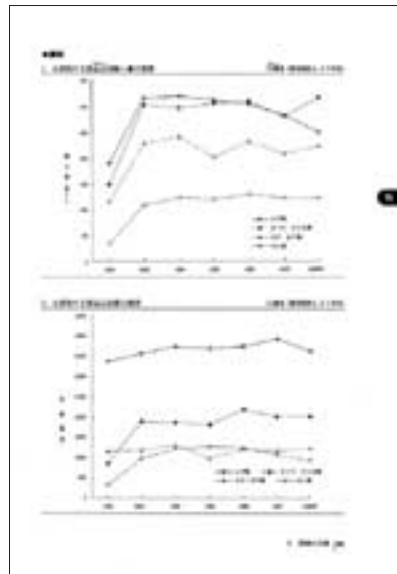
さらにこの「本文編」を補完する付属教材として「文型・表現練習編」とカセットテープがあります。「文型・表現練習編」の各課には漢字語彙練習、発音のポイント、文型表現練習、聞き取りのポイント、タスクがあり「本文編」の理解を助け日本語での会話能力がつくよう構成されています。

関心のあるテーマだけでも

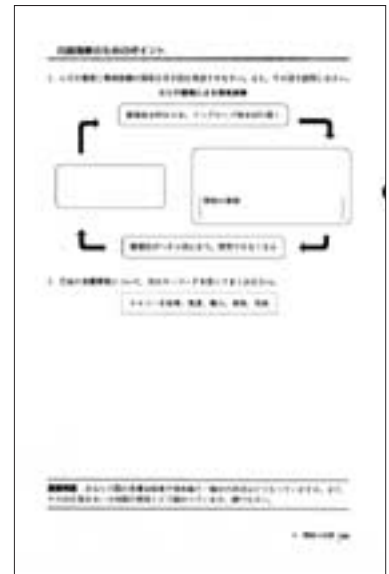
この教材の使い方として、一課ずつ進める方法もありますが、学生が関心のあるテーマだけを選んで進める方法もあります。また、時間の関係で「本文編」だけを使い、テーマについての内容理解をした後で、学生の話合いへ導くことも可能だと思います。



P.83 18



P.85



P.89

初級文型でビジネス会話を

『「ジェットビジネス日本語能力テスト」入門 わかるビジネス日本語』

データ

■加藤清方監修、島田めぐみ、澁川晶、小川茂夫 発行：アスク(〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6 / TEL.03-3267-6866 FAX.03-3267-4471) Business Network Corporation 245 Peachtree Center Avenue Suite 2200 Atlanta, GA30303 USA / TEL.404-681-4279 FAX.404-681-4175) 発売：凡人社(〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル8 F / TEL.03-3263-3959 FAX.03-3263-3116) URL www.bonjinsha.com/index-j.html E-mail info@bonjinsha.com 32001 年5月15日 44-87217-060-1 B 5判・152ページ 61,575円 7CD付

この本で取り上げられている会話は、ほとんど初級文型です。初級の段階からビジネス日本語の勉強を始めたい人に、特に役に立つ本です。全体は45課からなります。3課から5課で一つのまとまりを構成し、「紹介する」「意思を表明する」「質問する」「話しかける」「依頼する」

「了解する」「断る」「相談する」「許可を求める」「確認する」「助言する」「挨拶する」など、12の表現意図を扱っています。

難易度順になっていないので、どこからでも学習できます。巻末の状況一覧表(日本語・英語)を使って、「電話で話す」「上司に相談する」などの状況設定から、その時のニーズに合わせて、各課を検索することもできます。

各課の最初には、短い会話があります。この会話で、その場面のポイントを確認します。付属のCDで耳から確認するのもいいでしょう。次に語彙、会話、表現についての説明(英語)があります。キーセンテンスには簡単なドリルがついています。なお、すべての漢字にふりがながついています。

ふつう初級であまり扱われない待遇表現については、各課で会話に、上下関係、男女、ウチとソトの記号をつける、よく使う表現について「と言います」「って言う」というようにペアで取り上げ、丁寧さを比べる、などの工夫をして、理解を助けています。

各課の最後で、「おみやげ」「あくしゅ」「めいし」など、ビジネスの背後にある文化事情が簡潔に解説されています(英語)。

各表現意図の最後には、談話の型を練習する復習がついています。これがマスターできたら、初級文型だけでも、ビジネス場面での基本的な会話ができるでしょう。



P.58

談話の流れをおさえた教室活動のために

『スキルアップ日本語表現』

データ

■山下暁美 2 おうふう(〒101-8340 東京都千代田区猿樂町1-3-1 / TEL.03-3295-8771 FAX.03-3295-8778) 2001年4月15日 44-273-03192-2 B 5判・84ページ(タスクシート含む) 61,575円



P.12

この本は、これまで「本ばこ」のコーナーで紹介してきた本とは、ある意味でちょっと違います。というのは、この本は外国人のためではなく、もともとは日本人のために書かれたものだからです。日本人が社会に出たときに必要とされる実践的な<口頭表現>の力を、さまざまな練習を通じて身につけるための本です。

しかしこの本は、以下に見るように、日本語教育の中・上級レベルの教授活動に利用できる要素をそなえていると考えられるので、ここで紹介します。

本文は10の章からなっています。内容が「あいさつ・紹介」「スピーチ」「電話・アポイント」「敬語」「依頼・承諾・断り・感謝」「面接」「報告」「説明・プレゼンテーション」「ディスカッション」「ディベート」です。本の後半には、これらの各章に対応したタスクシートが用意されています。

各章は、まずその章の活動目標、次にそのテーマに関連する文章、と続き、最後に「フローチャート」があります。これは、タスクを行う

時の活動の流れを、図にしたものですが、同時にこれは<日本語の談話における標準的な流れ・構成>を示した資料と考えることができるものです。

例えば、ロールプレイなどの活動を行おうとする場合、日本語の談話に関する知識が必要となってきますが、教師がこの知識が不足していることから、効果的なロールプレイができないことがよくあります。そのようなときはこのチャートが役に立ちます。ここには、例えば「承諾する」や「断る」のように、いくつかのパターンが含まれ、しかもそれらの流れだけでなく具体的な会話例も載っているので、上手に言えば、変化のあるロールプレイを授業に取り入れる上で教師にとって役に立つ道具になるでしょう。



理論と実践の相互交流をめざして

『日本語教育における学習の分析とデザイン』

言語習得過程の視点から見た日本語教育

データ
■岡崎敏雄、岡崎暁、池田玲子 (p105 ~ 107を執筆) **■凡人社** (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河ビル8F / TEL.03-3263-3959 FAX.03-3263-3116) URL www.bonjinsha.com/index-j.html E-mail info@bonjinsha.com **■2001年5月10日** **■4**-89358-487-1 **■A 5判**・192ページ **■6**2,310円

この本は、言語習得研究・言語教育研究の成果を紹介し、その観点から日頃の教室活動の中でどんな学習が行われているかを分析し、また研究成果をふまえてどのような学習の場を新しくデザインし提供できるのかを、わかりやすく解説した教師用参考書です。

第一章では、「言語習得を促進させるもの何か」を探求する言語習得研究の流れについて概観しています。第二章では、言語の理解過程(読む・聴く)に関する研究、第三章では、産出過程(書く・話す)に関する研究について整理し、そこから得られる教育現場への示唆を提示しています。

第四章では、まず、既存の教材や実際の教室活動の例をいくつかとりあげ、学習者が経験すると思われる学習のプロセスを分析しています。例えば、「例を参考にして、友達を何かに誘うためのメモを書く」というタスクを与えられた時、与えられた例を見ながら機械的に文型や語彙を入れかえるだけで、実際の言語使用を意識しない学習者がいることを指摘しています。そして、前半3章の内容をふまえて、教師が教材の使い方や教室活動の手順などに工夫を加えることによって、実際の言語使用場面に近づけることができ、学習者はより能動的、自立的に学習に取り組みられるようになることを具体的にわかりやすく述べています。

目次 iii

1. 序論 教材・教育活動における学習の分析とデザイン	1
2. 言語習得の理論 第二言語習得の理論	10
3. 言語習得の過程 第二言語習得の過程	105
4. 言語習得のデザイン 第二言語習得のデザイン	107
5. 参考文献	110
6. 索引	115
7. 凡例	118
8. 編集後記	120
9. 著者略歴	121
10. 編集者略歴	122
11. 出版者略歴	123
12. 印刷者略歴	124
13. 発行所	125
14. 発行所	126
15. 発行所	127
16. 発行所	128
17. 発行所	129
18. 発行所	130
19. 発行所	131
20. 発行所	132
21. 発行所	133
22. 発行所	134
23. 発行所	135
24. 発行所	136
25. 発行所	137
26. 発行所	138
27. 発行所	139
28. 発行所	140
29. 発行所	141
30. 発行所	142
31. 発行所	143
32. 発行所	144
33. 発行所	145
34. 発行所	146
35. 発行所	147
36. 発行所	148
37. 発行所	149
38. 発行所	150
39. 発行所	151
40. 発行所	152
41. 発行所	153
42. 発行所	154
43. 発行所	155
44. 発行所	156
45. 発行所	157
46. 発行所	158
47. 発行所	159
48. 発行所	160
49. 発行所	161
50. 発行所	162
51. 発行所	163
52. 発行所	164
53. 発行所	165
54. 発行所	166
55. 発行所	167
56. 発行所	168
57. 発行所	169
58. 発行所	170
59. 発行所	171
60. 発行所	172
61. 発行所	173
62. 発行所	174
63. 発行所	175
64. 発行所	176
65. 発行所	177
66. 発行所	178
67. 発行所	179
68. 発行所	180
69. 発行所	181
70. 発行所	182
71. 発行所	183
72. 発行所	184
73. 発行所	185
74. 発行所	186
75. 発行所	187
76. 発行所	188
77. 発行所	189
78. 発行所	190
79. 発行所	191
80. 発行所	192



用例が多く、ローマ字表記、英訳つきの使い分け辞典

『日本語使い分け辞典』

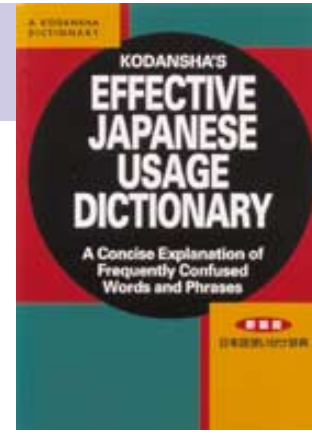
データ
■広瀬正宜、庄司香久子 **■講談社インターナショナル** (〒112-8652 東京都文京区音羽1-17-14 / TEL.03-3944-6492 FAX.03-3944-6394) URL www.kodansha-intl.co.jp **■2001年5月11日** **■4**-7700-2850-4 **■A 5判**・754ページ **■6**3,990円

ことばの意味の広がりや使い方の広がりや言語によって違うので、外国語の類似表現を使いこなすのは難しいものです。この辞書はわかりやすい説明に加えて、用例もたくさんあるので、ことばの意味を正確に理解したいとき、使い分けに迷ったときにたいへん参考になります。取り上げられているのは、使い分けの難しい「あける／ひらく」のような項目、302項目、708語です。それぞれのことばについて、意味・用法の説明と用例があります。いろいろな学習段階の学習者が使えるように、見出し語や用例にはローマ字と英訳がつき、漢字にはふりがなもついています。また、ことばの意味分野(程度

や量を表すことば、動きを表すことば、ようすを表すことば、心で感じることを表すことば、など)がすぐにわかるように9種類の分類記号が使われています。たとえば、「うれしい／たのしい／ゆかい」の項には「心で感じることを表すことば」の記号(ハート)がついています。項目の説明以外に、楽しみながら語句の知識が整理できるようなコラムも30あります。題名をあげると、「下がる」「めん類」「けっこうです」などです。

巻末の索引には、「ひらがな項目索引」、「ひらがな語索引」、「ローマ字索引英語つき」、「ことばの意味分類索引」があり、いろいろな引き方ができるようになって

います。学習者が自習するときにも、教師が授業の準備をするときにも役に立つ1冊です。



P.18 ~ 20 は以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。
 雄谷進、大隅敦子、内藤満、島田徳子、木山登茂子(執筆順)
 おうやすび おおすみあつこ ないとうみつる しまだのりこ きやまともこ しつびつじゅん